



東北地区国立大学法人等 オープンセミナー ～先輩職員の体験談～

令和6年3月5日
福島大学 研究協力分野

【本日の内容】

- 自己紹介・なぜ大学職員になろうと思ったか
- 1日のスケジュール
- 大学職員に求められること
- 試験対策
- 業務紹介
- 大学職員の魅力は？



自己紹介

- 福島県出身
- 平成27年3月 国立大学卒業
- 平成28年4月 福島大学採用
→平成28年4月～ 学生課課外活動支援担当
(現 学生留学生課)
- 平成31年4月～ 人事課任用係
- 令和4年11月～ 研究地域連携課社会連携係



私が大学職員を目指した理由

- ①とにかく地元で働きたかった
- ②学校で働きたかった
- ③地元福島の復興・発展に貢献出来る仕事に就きたかった

1日のスケジュール(研究・地域連携課)

(ルーティン的なものではなく、あくまで目安です)

- 8:30 業務開始
- 8:30～ 9:30 メールの確認、対応
- 9:30～12:15 締め切り等に応じて業務を行う。
会議が近ければ資料の準備や調整を行う。イベントが近ければ打ち合わせ等の調整を行う。
- 12:15～13:15 お昼休憩
- 13:15～16:15 午前中の続きに加え翌日に予定している業務の準備等
- 16:15～17:15 翌日以降の業務スケジュールの確認、締め切りが近いものがあれば、いつまでに何をやらなくてはいけないか、スケジュールを組む。
- 17:15～ 急ぎのもので対応がおわっていないものがあれば、必要に応じて超過勤務をする。



大学職員に求められると思うこと

- 学生や教員、事務職員の立場が違う三者が1つの場所に集まっている
- 立場が違えば意見も違う、国籍や文化が違う人も多い



相手の話を聞き、尊重すること

自分の考えを相手に論理的に、また誤解を与えないように伝えること

意見のぶつかる部分があれば、冷静に一緒に落とし所を考えられること

→大学職員の業務は学生や教員の活動を支援すること

試験対策

- 面接について
内容 面接



対策 自己分析・・・相手の印象に残る言葉など
他の人と面接の練習・・・客観性が必要
福島大学の情報収集
面接は印象が大事なので当日までにコンディションを整える

学生・留学生課とは

- 学生の生活を支援する課
一部抜粋
 - ・ 課外教育等の支援
 - ・ 経済相談(奨学金を含む)
 - ・ 入学金・授業料の免除
 - ・ 体育館等の課外活動施設運営
 - ・ 学生寮の運営



学生課での仕事(課外活動支援)

- 学内体育施設・課外活動施設の管理・運営
- 学生の活動の支援（物品・施設貸出等）
- 入学手続き関係業務
- その他学生対応

学生とのやりとりがメイン

人事課とは

- 人事に関する業務を行う課
一部抜粋
- ・人材育成に関すること
- ・**職員の任免に関すること**
- ・給与、諸手当の支給
- ・職員の勤怠管理や福利厚生
- ・社会保険等の事務



人事課での仕事(任用係)

- 契約職員、パートタイム職員師の採用、その他手配(待遇の確認等)
- 文科省や厚労省からの調査物関係対応
- その他対応（叙勲申請、改姓、証明書発行等）

教職員とのやりとりがメイン

研究・地域連携課とは

- 学内研究の支援、地域との連携に関する業務を行う課
一部抜粋
- ・学内研究者の研究の支援
- ・外部資金の獲得の支援
- ・**産学官連携に関すること**
- ・大学発ベンチャー支援
- ・知的財産の管理運営
- ・**自治体や企業など地域との連携**



福島大学 ミッション2030 (学長プラン) のポイント

基本理念： 地域と共に 21世紀的課題に立ち向かう大学
人口減少・少子高齢化時代における地方の「新しい社会づくり」の実現・モデル化

新しい社会と大学の目的

地方が直面する経済の低成長時代を人間的、創造的に生きていく知恵と技術、人口減少・少子高齢化でも、一人ひとりが豊かに、希望に満ちて生きていけるライフスタイル

個人のWell-being、社会のWell-beingの実現をめざす大学

第4期における大学のあり方

社会に関わり、異質な人々が出会う場からあるべき社会の姿を共に探究、新しい社会をつくるための思想や価値観、知識や技術、構想力や実践力を獲得

試行錯誤、実践と反省を繰り返して新しい社会を生み出す「社会づくりの実験室」

人材育成方針

アカデミックな学び、豊収、博覧強識からの経験を活かす10年先の課題を育す人材育成。未来志向的、社会のハブ、国際な問題解決に挑み、社会の価値観や技術を創造的に再構築しようとする人材

地域および世界の「21世紀的課題」に取り組むイノベーション人材の育成

教育のあり方

- 地域の現状・課題と大学での学びを重畳、**地域実践型プロジェクト**、**学費を拡大**
- 人材育成方針をすべての教育課程に通貫、学士課程から修士課程までの教育を体系的に連携
- PBL、ICT、STEAM、グローバル、シテイズンシップ等の教育
- 基礎的な知識の習得と実社会での応用、地域と世界の問題発見、異文化コミュニケーション、問題解決にむけた主体的な学習、などを高度に融合・充実

研究のあり方

- 地域課題・21世紀的課題に対応した**基礎的研究を政策的に強化**、**既存の学類・研究科の研究の「強み」を明確化**
- 人文・社会・理工・農食の各分野の高度な融合と総合性を実現させるために、異分野間の共同研究を推進
- 「発酵醸造研究所」を発展させ、「福島国際研究教育機構」へ積極的に参画し、大学全体の研究・実践フィールドとして位置づけ

地域貢献のあり方

- **地域社会に新しい形を提案し、10年後を見ずえた地域の在り方を追求**
- 大学としてなすべき社会貢献の在り方を再構築して重点化
- アクション・リサーチのように教育・研究に還元される仕組みをデザイン
- 地域と協働し、学生の学びの場・研究のフィールド・地域の課題解決の3つの領域を有機的に融合

研究・地域連携課での仕事(社会連携係)

- 地域からの相談への対応
お話を聞いて教員や他部署等を案内する地域の窓口的な役割(→共同研究等に発展)、講演会等への講師派遣、審議会委員等への推薦等
- 自治体等との協定締結
必要に応じて、お互いに協力がしやすいように連携協定を締結する(県内 市町村と締結している)(他研究所や企業とも)

- 地域未来デザインセンター運営業務
 - 会議運営
 - イベントの運営(県や市との意見交換会、地域連携コーディネーター連絡会議等)
 - みちのくアカデミアスタートアッププラットフォーム(MASP)関係事務業務
- 東北大学を主幹校としたプラットフォーム主に、起業活動支援、アントレプレナーシップ人材育成プログラム、起業環境整備、拠点都市のエコシステムの形成・発展について推進している

地域と学内の調整がメイン

地域未来デザインセンターとは

地域未来デザインセンターがめざすもの

2022年(令和4年)4月 地域創造支援センターとうつくしまふくしま未来支援センターを発展的に統合。地域未来デザインセンター発足
地域の課題解決およびイノベーション創出に貢献するとともに、新しい地域社会の在り方を提案し、地域創生に寄与することを目的とする。

復興における課題	● 産業再生の停滞 ● ハード偏重ソフト軽視	21世紀的課題	● 人口減少社会・少子高齢化 ● 地域の産業活力の低下	● コミュニティ崩壊 ● エネルギー問題
----------	---------------------------	---------	--------------------------------	-------------------------

幸福度の高い福島をめざして

豊かな暮らし・地域づくり 産業の育成 人づくり 人権・人格の尊重

センターの活動

協働(自治体・企業・NPO・教育機関・市民)して個別テーマを解決する。 ▶課題を解決するプロジェクトを生成・実行する。 ▶課題に関する研究を行う。	民間企業の事業開発人材・起業家の育成を図る。 ▶アントレプレナーシップ教育 ▶事業開発・起業教育	市民(子ども、社会人)の学びを支援する。 ▶センターを使った市民活動支援 ▶文化を含めた市民の学び支援 ▶震災復興、防災の学び
---	--	--

地域未来デザインセンターとは

機能概要

社会課題解決プロジェクト形成支援

- 学内研究・教育シーズの集積
- 各種プロジェクトの形成と支援
- 自治体・企業等との相談業務、連絡調整
- 地域、自治体、企業活動の情報収集・分析（IR）

産官学民連携の促進

- 自治体や企業・市民など多様な人材を様々な形で受け入れたプラットフォームの展開
- 各種プロジェクト、企業・自治体・団体のワーキングの場の提供・調整
- 市民教育 等

起業・事業開発人材育成

- 起業・事業開発・イノベーション教育
- 教員・学生・アントレプレナー新規事業開発支援

生涯学習・資料整備保存

- 出前講座講師の派遣
- 公開講座・公開授業
- 貴重資料（旧地域創造支援センター所蔵資料）保管

復興創生

- 被災地スタディツアー
- 防災教育教材活用事業
- 相双地域支援サテライト事業

大学職員として働くことの魅力



- 可能性を秘めた学生の成長をサポートできる
- 大学ならではの地域貢献の仕方がある
- 大学というおもしろい環境で仕事ができる

一緒に福島大学で働きましょう！

